

いちじく

いちじくは「無花果」と書くとおり外面から花が見えませんが、花囊(かのう)の中で花をつけます。イチジクコバチという小さな蜂がその中にもくりこんで卵を生み付け、このとき受粉が行われます。

参照：「植物の心」 塚本裕一 岩波新書

(<http://members.jcom.home.ne.jp/3111223201/ikimono/fig-bee.htm>)

さて聖書にはいちじくが豊かさを表すものとして頻繁に登場し、またたとえ話の中にも登場します。「豊かさ」が「信仰」の象徴となっています。そのことを知って聖書を読むと理解が深まります。

イエスは次のようなたとえを話されています。

(1) 「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』」(ルカ 13:6-7)

(2) イエスは道端にいちじくの木があるのを見て、近寄られたが、葉のほかは何もなかった。そこで、「今から後いつまでも、お前には実がならないように」と言われると、いちじくの木はたちまち枯れてしまった。(マタイ 21:19)

実はこの二つの話は「イスラエルの信仰の象徴であるいちじく木に、ひとつの実もなっていない。イスラエルは信仰を失っている。」という意味です。

マルコの福音書はこの部分に「いちじくの季節ではなかったからである」(マルコ 11:13)と付け加

えていますが、これでは話の意味がわからなくなってしまう。イエスの怒りを理解していない言葉です。

